

ごあいさつ



実行委員会委員長

網代 宗四郎

瀬谷区が区制50周年を迎えたことを、区民の皆様とともに喜び申し上げます。昭和44年10月1日に戸塚区から分区して、50年の歳月が経ったことを大変感慨深く思っています。

また、区制50周年記念誌の発行にあたり、御理解と御協力をいただきました関係諸団体や区民の皆様に、心より感謝申し上げます。

瀬谷区制50周年記念事業実行委員会では、50年という節目の年を区民の皆様とともに祝いするため、さまざまな記念事業を行ってまいりました。みんなが「つながる」、みんなに「つたわる」、あしたに「つなげる」をテーマに、地域・関係団体・企業のお力添えのもと、地域を超え、世代を超え、障害のあるなしに関わらず、多くの方の心に残る素晴らしい事業が展開できたことを大変嬉しく思います。

瀬谷区は地域の繋がりが強く、あたたかく暮らしやすいまちだと実感しております。これから先の50年も、私たち区民が住み続けたいと思える場所であることを願っています。

なお、この記念誌が、瀬谷の歴史と未来に思いを馳せていただくきっかけとなれば幸いです。結びに瀬谷区のますますの御発展と区民の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。



横浜市長

林 文子

区民の皆様、関係団体、企業等の皆様の大きな御支援により、瀬谷区制50年の節目を迎えられましたこと、心より感謝申し上げます。

瀬谷区は、昭和44年の行政区再編成により、戸塚区から分区して誕生しました。区内には歴史を伝える多くの史跡や多様な地域資源のほか、豊かな水と緑の潤いが感じられる、横浜市内でも恵まれた自然環境が多く残されています。歴史や自然を感じられる、多彩な魅力をもつ区として発展してまいりましたのも、区民の皆様の御尽力の賜物です。

待望の相鉄・JR直通線が、計画認定から13年をかけ、遂に開業を迎えました。区民の皆様の東京都心部への所要時間が大幅に短縮され、利便性が高まります。瀬谷区に新たな活力と賑わいをもたらす瀬谷駅南口第1地区の再開発も、再開発組合の皆様と協力し、令和3年度の竣工に向け、着実に進めております。また、2027年の旧上瀬谷通信施設への国際園芸博覧会招致も見据えたまちづくりを、更に推し進めてまいります。

今後も、瀬谷区、そして横浜市の魅力を皆様に実感していただけるよう、力を尽くしてまいります。変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

瀬谷区民の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を、心より祈念申し上げます。



瀬谷区長

森 秀毅

このたび、瀬谷区は区制50周年を迎えました。記念式典や地域における記念行事などのイベントは大変盛り上がり、瀬谷区を祝うにふさわしい、素晴らしい年になったと感じております。これもひとえに区民の皆様や、関係団体・企業の皆様の御支援、御協力の賜物と心より感謝申し上げます。

瀬谷区が誕生して以来、先人達の英知と努力により、地域と行政が一体となって、暮らしやすいまちづくりが進められてきました。瀬谷区は自然豊かな区であるとともに、温かな地域のコミュニティに支えられ発展を遂げてきました。また、平成27年には上瀬谷通信施設が日本に返還され、国際園芸博覧会の招致や土地利用の検討が開始されるなど、今後大きく変化し発展していきます。

区制50周年のキャッチフレーズである「思い出も 未来も共に この瀬谷で」に込められた思いをもとに、これからも瀬谷の魅力を次の世代へつなげていくとともに、幸せが実感できる瀬谷のまちづくりを進めてまいります。

区民の皆様には引き続き、瀬谷区政へ御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

水、緑が豊かなまち

「瀬谷」



瀬谷区の成り立ち

横浜市の最西部に位置し、南北に細長い地形で、東側は旭区、西側は大和市、南側は泉区に、北側は緑区及び町田市にそれぞれ接しています。面積は17.11km²、人口は122,166人(令和元年10月1日現在)で、市内18区中、いずれも16番目となっています。

瀬谷は農業地帯として発展し、明治30年代以降は養蚕業が盛んな地域でした。大正15年に神中鉄道(現 相鉄本線)が開通、宅地化が

進み人口も増加しました。昭和30年代に公営住宅が建設されはじめ、田園・農村都市的な性格に東京や横浜などの都心部のベッドタウン的性格が加わるようになりました。

その後、昭和44年10月1日の行政区再編成にともない、戸塚区から分区分して瀬谷区は誕生しました。区名は、古くからの地域名である瀬谷に決まりましたが、公募では「西浜」も瀬谷に並んで多く寄せられた区名でした。

豊かな自然環境に

育まれたまち

瀬谷からは、富士山や大山・丹沢の山々の四季折々の美しい姿を楽しむことができます。開発が進む中でも、川や森・林などの自然が多く残されており、区民の自慢のひとつとなっています。

瀬谷は「狭い川瀬の小谷のある地」、「狭谷」が地名の由来といわれています。

南西になだらかに下る相模原台地に、境川とその支流が谷戸を刻む地形で、区内には5本の川が南北に流れています。区の真ん中を流れる相沢川には、川沿いを散歩できるプロムナードがあり、豊かな自然と水の音を同時に楽しむことができます。

また、旭区との境にある瀬谷市民の森付近を源流とする和泉川は、約2.8kmの区間に6つの水辺があり、区民の憩いの場となっています。水辺の植物・生物の観察に適した環境が整っており、絶滅危惧種の生息も確認されています。

さらに、瀬谷区の北部には平成

27年6月に日本に返還された旧上瀬谷通信施設があります。区の面積の約14%を占めており、総面積は約240haになります。この旧上瀬谷通信施設の中央を縦断するように真っ直ぐ伸びた「海軍道路」の長さは約3km。沿道に約400本の桜が植わっており、春には桜の花のトンネルを楽しむことができます。今後、旧上瀬谷通信施設では国際園芸博覧会の招致を見据えたまちづくりが進められ、瀬谷区は大きく発展していくことが期待されています。

